

新春対談

西田海田町長と上市自治会の向井会長が新春対談を行い、今後の海田町の防災について語り合いました。



海田町長
西田祐三



上市自治会長
向井良明

防災情報について

向井会長 平成30年7月豪雨災害当
事、避難勧告が出たときには、雨が強
く、防災行政無線の放送がよく聞こえ
ませんでした。

町長 大雨の時は、防災行政無線では
聞こえにくい場合もありますね。そう
いう時は、防災行政ラジオというもの
もあります。そのほかにもテレビのテ
ロップや携帯のメールでも情報を流し
ています。それらも、もう少し使って
もらえるようにしないといけません。

向井会長 お年寄りには携帯を持ってい
ない人も多いし、テレビで見ることが
できるのは良いと思います。

町長 Lアラートは、テレビ画面の一
部に避難情報が表示されます。

向井会長 しかし、テレビに表示され
る文字には心が入っていないので、そ
れを見て、「よし、逃げるぞ」と判断
するのは難しいところがあると思いま
す。

町長 そうですね。今回の災害時の防
災行政無線では、職員の話し方に、も
のすごく危機感があって、それを聞い
て逃げたという人もおられました。

向井会長 やはり耳で聞くというのが
良いですね。心に響きます。

町長 今後は、ラジオや防災行政無線
のアナウンスのやり方なども工夫して
いく必要があると考えています。

向井会長 今後は心の入った町内放送
をしていただくことと、必要な家庭に
は防災行政ラジオで情報を聞いてもら
えるようにしておくことが重要で
すね。

町長 そうですね。ご家庭の状況に合
わせて、情報を得る手段を考えていた
だくことが大切です。防災行政ラジオ
もその1つですね。

向井会長 ラジオは、家の中で聞くこ
とができるので正確に伝わります。特
にお年寄りで一人住まいの方は、災害
当事、家から出ていない人が多かった
です。災害の情報が入らず、どうなっ
ているのか、どうすればいいのかわ
からず、不安がられている方がたくさ
んおられました。そういう人たちに
とってはラジオ放送が頼りになると思
います。

町長 それぞれが個人で情報を入手し
て、自分の身は自分で守るというよう
な行動を取ることが重要ですね。

避難場所について

町長 災害に備えるため、海田町では、
多くの協定を結んでいます。協定とい
えば、物資や食料品をイメージする
と思いますが、海田町は、避難場所につ
いても協定を結んでいます。これは今
までにない協定の取り組み方です。自
治会とも連携して避難所として使える
場所を増やしていけたらと思っています。
す。

向井会長 一時避難の場所ですね。海
田町の人口を考えると、10%の人が避
難したとしても、3千人になります。
避難所に指定されている公民館や福祉
センターだけでは、とても入りきりま
せん。

町長 今回は土砂崩れの対象だけでも
約1万6000人でした。洪水も含め
ると全域です。これからは避難場所を
増やすことが大事になってきます。

向井会長 今回の災害で避難所として
使うことができなかった施設について
も今後一時避難所として使えるかどう
か検討していただきたいです。

町長 そのような拡大も、これから考
えていかないといけません。安心安全
なまちづくりのために、避難の在り方
そのものを再確認していく必要があります。

ます。町民の皆さまに、緊急時の避難
場所や避難経路の確認をしていただ
き、自分の身を守るための行動につ
いて考えていただけるように取り組ん
でまいります。

避難率について

町長 避難している人の年代として
は、10歳までの子どもが一番多くなっ
ていて、その次が40代、その次が70代
となっています。このように、子ども
が逃げようとする、その親も一緒に
避難する、そして、そのおじいちゃん・
おばあちゃんも一緒に避難するという
ようなことが、今回の数値から推察さ
れます。

向井会長 確かに家族連れで避難され
ている人が多いようですね。

町長 そうなんです。海田町は、児童・
生徒の数が多いので、今後は子どもを
対象とした防災教室を実施していくこ
とも考えないといけませんね。このよ
うな防災教育を行うことによって、子
どもたちが避難を促せば、親や祖父母
も逃げ、連鎖的に避難率を高めること
ができると考えられます。また、学ん
だことは、子どもたちが成長したとき
にも活かされるのではないかと考えて
います。

